

スポーツで大切にしたいこと

活動場所：3年1組教室

10月7日（水） 11：20～12：25

提案者 齋藤 晃

活動設定の意図

スポーツで大切にしたいこと（善悪の判断、自律、自由と責任、親切、思いやり、規則の尊重）

勝負へのこだわり、記録や高難度技術の追求、ルール遵守、フェアプレイなど、競技する上で社会的に大切だとされていることは多様にある一方で、それぞれの重要度は個人によって違う。また、大切だとされている価値が人によって差異があることで、勝利のための意図的にルール違反をしたり、ルールを遵守しながらもフェアとされない行為があったりする等、矛盾や対立が生じる。子どもは自らつくったスポーツやニュースポーツを通して、スポーツを楽しむ上でルールを守ることということを大切にしてきた。そんな中、キンボールにおいて、勝つことや自分が楽しむことを目的に、ルールとして規制されていない行為が行われるようになり、ルールを違反しているわけではないが、ずるい、楽しくなくなると否定的にとらえている子どもがいた。しかし、キンボールでの対戦を繰り返す中で、その行為に対する子どもの見方が変わってきた。今、子どもは何を大切に競技しているのか。キンボールでのルールで規制されていない行為に対する思いの変容をみつめながら、スポーツをする上で大切にしたいことについて考えていく。

1 道徳的な価値観をつくる子ども

3年1組では、創造活動「アクティブファン」において、子どもは、する、つくる、みる、ささえるといった多様なスポーツの楽しみをつくっている。自らスポーツを楽しみながら、他者と交流や対戦をしたり、地域にたくさんのスポーツ施設があることに気付いたりしながら、他者や地域とのかかわりをつくっている。

子どもはこれまでに4種類の用具からスポーツをつくっている。中でも、フライングディスクからつくられたスポーツでは、同級生や異学年との交流・対戦イベントを行うことで、下学年にスポーツの楽しさを伝えたり、互いに全力で勝負したりすることの楽しさをあじわいながら、スポーツを通じた他者との交流や対戦におけるそれぞれの価値観をつくっている。特に、対戦では、自己の成長、仲間との協力、下学年への思いやりなど、多様な価値観がつけられている。

繰り返しスポーツをしている子どもは、他者との口論があったり、不満が生まれたりする中で、互いのルールを守る行為により、対戦が楽しめるという価値をつくっている。だからこそ、スポーツをつくる上で仲間と相談してルールを決めたり、実際にしながらつくり変えていったりしている。ニュースポーツにおいては、既存のルールを理解し、違反する行為については、決められたペナルティを科すことで対戦を成立させて

いる。キンボールにおいて、実力が劣るチームを集中的に攻撃するチームがあった。ルールとしては規制されていないが、この作戦に対して、当初不満を抱き、批判する子どもがいた。しかし、対戦を繰り返す中で1チーム集中攻撃に対するみかたが変わってきた。キンボールの特性を存分にあげた子どもは、それを楽しみとしてとらえる子どもが増える一方で、作戦実行にあたり抵抗を感じている子どももいる。

キンボールでの1チーム集中攻撃に対する自らの思いやその変容をみつめることを通して、勝敗、ルール、他者とのかかわり等、それぞれの視点からスポーツをする上で大切にしたいことについて考えていく。

2 本時の構想・展開

(1) 本時のねらい

キンボールでの1チーム集中攻撃について考えることを通して、ルールや勝敗等に対する自分や仲間の思いを共有したり、思いの移り変わりをみつめたりしながら、スポーツをする上で大切にしたいことについて自分の考えをつくる。

(2) 道徳的な価値観の自覚を促す手立て

○ 1チーム集中攻撃に対する思いやその変容を表す

子どもは、自分や仲間がつくったスポーツ、地域で行われているニュースポーツを繰り返す中で、ルール

遵守がスポーツを楽しむための大切な要因として考えている。3チームで得点を競うキンボールにおいて、勝つことや身近な仲間との楽しみのために、1チームを集中して攻撃する作戦をつくるようになった。対戦経験が浅いうちは、この作戦に対して批判的にみえていたが、対戦を繰り返す中で1チーム集中攻撃は当たり前となり、見方が変わってきている子どももいる。1チーム集中攻撃に対する子どもの思い、またその変容について共有することで、勝敗やルール、他者とのかかわり等の視点から、子どもがスポーツのとらえをつくり、つくりかえてきたのかを表す。

(3) 対象の新たな一面にふれる手立て

○ 1チーム集中攻撃に対する抵抗を感じている仲間の姿を紹介する

キンボール大会において行われた「1チーム集中攻撃作戦」はルールに違反していなく、子どもがキンボールをする上で勝利という目標がある場合には、当たり前のように行われている。しかし、1チーム集中攻撃を作戦として実行するにあたり抵抗を感じ、教師の承諾を求める事実があることを知る。なぜ承諾を得るのか、それぞれの思いを表す中で、キンボールの競技性やルール等の視点から集中攻撃に対してみつめなおす。勝利に対する思い、対戦相手への思いやり、ルール等の様々な視点から、スポーツをする上で大切にしたいことを見つめる。

(4) 本時の展開 (65分)

時間	番号; 子どもの活動 ・ ; 子どもの姿	○ ; 教師の手立て
30	<p>1. 1チーム集中攻撃に対する思いについて書いたり、話したりする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールに違反しているわけではないと話す。 ・試合に勝ちたい。だから相手の実力をみて、キャッチミスしやすいをチーム集中してねらうのは当たり前だと話す。 ・集中攻撃に対して、以前はずるいという気持ちをもっていたが、最近は自分もするようになったと話す。 ・ねられることに対して嫌な気持ちをもっていたと話す。 	<p>○1チーム集中攻撃に対する思いの違いや変化が分かるように板書する。</p> <p>○活動前後半で自分の思いを作文シートに書くことで、思いの変容に気付けるようにする。</p>
25	<p>2. 1チーム集中攻撃作戦に抵抗がある仲間の存在から考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別に悪いことをしているわけではないのだから、先生に確認する必要はないと話す。 ・1チームを集中して攻撃することに何か悪いと感じているのではないかと話す。 ・確かに、自分も以前は集中攻撃に対してずるい、卑怯という思いをもっていたと話す。 	<p>○1チーム集中攻撃をする際に、担任の承諾を求める仲間がいることを伝える。</p>
10	<p>3. キンボールをする上で大切にしたいことを書く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キンボールには勝ち負けがある。対戦するからには勝ちたいし、勝敗にこだわって、全力でプレイすることを大切にしたいと書く。 ・勝ち負けよりも、いろいろな人と一緒にキンボールをして楽しむことを大切にしたい。 ・キンボールだけでなく、ルールはスポーツする全ての人が楽しめるためにつくれている。だからルールを守ることを大切にして、自分も仲間も楽しめるようにしたいと書く。 	<p>○「キンボールをする上で大切にしたいことは何か」と問い、これまでの活動を振り返る時間をつくる</p> <p>○「私がキンボールをするときに大切にしたいことは」と書き出しを指定する。</p>

3 活動の振り返り

(1) 子どもがもつ違和感から活動を構想する

7月13日に、子どもは地域の体育施設で初めてキンボールに出会う。対戦をしていく中で、子どもは1チームを集中して攻撃する作戦を始めた。自らのチームが勝つために、技能に劣るチーム、つまりキャッチミスをしやすいチームをねらい続ける。勝つという喜びを感じている子ども、あんな作戦はずると納得できない子ども、その姿は様々であった。キンボールの対戦を進めていく中で、ゲームの特性に気付いた子どもは、1チームを集中して攻撃することが試合における勝つための作戦の1つとして考えたり、ねらわれることに楽しみを感じたりするようになっていった。一方で、この作戦に対して抵抗を感じている子どもの姿もあった。スポーツのひとつの醍醐味である勝利に向かって全力で競技するという視点では、ルールとして規制されていないため、咎められる行為ではない。一方で対戦相手への思いやり・礼儀、そこまでして勝つことへの抵抗という視点からは、容認しがたい行為である。ここに子どもにとっての違和感の根本にある矛盾や対立があるにとらえ、本活動を構想した。

(2) 道徳的な価値観をつくる姿からみる本活動における子どもの姿

① 1チーム集中攻撃作戦について考える

7月13日に行われたキンボール大会について振り返る中で、いくつかのチームで行われていた1チーム集中攻撃作戦についてどう思うかと問うた。子どもは「勝つためにはありでしょ」「かわいそう」などとすぐに反応した。作文シートに、それぞれの思いを書いた。

わたしは、1チーム集中こうげきは、かわいそうだと思います。わたしは1チーム集中こうげきをされたときはかなしかったです。なんでかと言うと、点ばっかとられていくので楽しくありませんでした。 美紀

1チーム集中攻撃作戦に対して否定的にとらえている美紀さんは、自分がされた時の思いとつなげて、集中してねらわれるチームがかわいそうという道徳的な価値観を表出した。

その後の共有では、対戦する上で勝つことを大切

にしたり、キンボールのルールから1チーム集中攻撃作戦を考えたりしながら、1チーム集中攻撃作戦に対するそれぞれの思いが表されていく。しばらく意見を共有した後に、ここまでの活動から、1チーム集中攻撃に対する考えを再び書いた。

今、わたしが思うことはまよっています。だってねらえばかてるし、ねらわなかったらかてないかもしれないからです。準くんが、「かてなくてもいいの?」わたしが「え、それは…」かちたいときは、ねらってしまう…でもどうせかていないってわかってるときも…わたしって、いつもキンボールをやっているときは、ねらってる…わたしって1チーム集中こうげきをいいと思っている… 美紀

「勝っても、対戦相手がかわいそう」という意見に対して、寛太さんが言った「じゃあ、負けてもいいの」という言葉に大きく揺れ動いていた美紀さんの姿がとらえられた。

1チーム集中攻撃作戦に対する思いを共有する中で、1チーム集中攻撃作戦に対して、昌史さんは以下のように自分の思いを伝えた。

全チームが全力でぶつけて勝ったんだったら勝ったで、負けたんだったら負けたでいいと思う。 昌史



一般的に全力を尽くすということは、スポーツマンシップのひとつの在り方として考えられている。晃太郎さんは、1チーム集中攻撃作戦について考えていく中で、これまで共有されてきた勝敗や対戦相手への思いやり等とは違うスポーツにおいて全力を尽くすことの大切さを新たな価値観としてつくっていった。

それぞれの価値観がぶつかり合う中で、輝真さん

が「だって、オリンピックとかだってさ・・・」と、キンボールという単一の枠組みからオリンピック、つまりスポーツというより大きな枠組みで考え始める姿が見られた。

②新たな一面との出あい

その後、以下の作文シートを示した。集中攻撃を受けたチームの得点と他の2チームが大きく差がついている試合状況をみたときに、試合内容という新たな一面からこれまでの考えをみつめ直す場となるのではないかと考えたためである。

白・・・9点 黒・・・0点 青・・・9点
いいあいでした。

子どもは、「いい試合」という言葉に大きく反応した。これまでは、対戦相手への思いやりや自らの勝ちに対する思いから1チーム集中攻撃作戦をとっていた子どもが、いい試合という視点から1チーム集中攻撃について考えるようになった。この結果をみたとき、「全然いい試合ではない」と反応した子どもがいた。すると、健太さんがすかさず、これに対する思いを伝える。

「黒が0点だからかわいそうと言っているけど、いい試合ってというのは勝ったからいい試合と言っている。」それに対し、寛太さんは、「いい試合ってそういう意味じゃない。それだったら逆に勝ててうれしかったにすればいい」、輝真さんは「ずっと同点とかが繰り返されてさ・・・」、結花さんは「得点が低いチームをねらうのは違う」、亜実さんは「勝ててうれしいといい試合は全然違う」と言っている。いい試合について言い合う姿からも、そのとらえにズレがあったことがうかがえた。子どもはこれまでのスポーツの体験から、試合を勝敗だけではなく、様々な視点からみていた。

(3) より細かな枠組みから子どもの姿を思い描き、活動を構想する

作文シートに、1チーム集中攻撃作戦に対する思いを書いている内容を見て回りながら、違和感をもつ。活動中には気付かなかったが、翌日の「アクティブファン」をしている子どもをみて、その原因に気付く。子どもは、本活動においてキンボールを2つの枠組みからとらえていた。大会におけるキンボールとアクティブファンにおけるキンボールである。私は大会もアクティブファンも同じ枠組みでとらえていたが、子どもにとって大会は特別であった。子どもは2つのキンボールから1チーム集中攻撃作戦について思いを表していた。だからこそ、子どもの議論にズレを感じることに繋がった。いい試合という言葉によって、試合という同じ枠組みの中で議論するようになった。いい試合という視点から考える1チーム集中攻撃についてひろげていくことで、子どもは自分をみつめ、価値観をつくることができたと考える。

実践道徳の構想において、より細かな生活のとらえが、新たな一面にふれる手立てもより子どもの価値観を揺さぶるものとなる。

(4) これまでの価値観をより強くする姿

活動構想の際に子どもの姿を思い描いたとき、他者やスポーツにおける様々な要因から自らの価値観を問いながら、これまでの価値観をより強くする姿が見られるだろうと考えた。健太は、自分の思いを伝える際、「みんなはこう言うけど」という言葉を何度か使っている。健太さんの姿は自分とは違う他者や社会における価値観を認めながらも、これまで自分がもっていたスポーツに対する価値観を強めていく姿ととらえた。

〈メールにて本活動に関するご質問、ご意見、ご感想をお寄せください〉

提案者連絡先 asaito@juen.ac.jp (齋藤晃)

